

# 外国人物 レファレンス 事典

架空・伝承編  
第Ⅱ期

# 凡 例

## 1. 本書の内容

本書は、国内の代表的な神話・伝説・伝承事典、妖精・幻獣事典、登場人物事典などに掲載されている外国（西洋・東洋）の架空・伝承の人物の総索引である。カタカナ、または漢字・ひらがなで表記された見出しとしての人名のほか、人物の特定に最低限必要なプロフィールを補記し、その人物がどの事典にどのように表記されているかを明らかにしたものである。

## 2. 収録範囲と人数

- (1) 別表に示した 63 種 66 冊に掲載されている、海外の神話や物語の登場人物、妖精・妖怪など架空・伝承の人物（生物）などを収録した。
- (2) 前版刊行後に出版された事典および前版未収録の事典を補遺として一部対象とした。
- (3) 実在とされる人物でも、芸術作品に数多くとりあげられる人物や神話・英雄事典などに掲載される伝承性の高い人物は収録した。
- (4) 収録人数は 21,790 人、事典項目数はのべ 32,636 項目である。

## 3. 記載事項

本書の各項目は次の要素から成る。

- ① 人名見出し
- ② 人物説明
- ③ 掲載事典

### (1) 人名見出し

- 1) 原則として同一人物は各事典での表記に関わらず一項目にまとめた。まとめるに際しては、多くの事典に掲載されている一般的な表記（カタカナ／漢字）とその読みを採用した。但し、地域・国・時代・登場作品により呼称が違う場合など別項目とした見出しもある。「名・姓」「姓、名」の表記順については、原則事典表記のままとした。
- 2) 英字表記がある場合は見出し横に示した。東洋人名のピンインなどは〈 〉に入れて区別した。

## 収録事典一覧

略号	書名	出版社	刊行年
アガサ大	アガサ・クリスティー大事典	柊風舎	2010.11
アガサ百	アガサ・クリスティー百科事典	早川書房	2004.11
悪魔学	悪魔と悪魔学の事典	原書房	2016.4
アーサー神	アーサー王神話大事典	原書房	2018.2
アーサー伝	図説 アーサー王伝説事典	原書房	1996.8
岩世人	岩波 世界人名大辞典 2分冊	岩波書店	2013.12
インド神物	ヴィジュアル版 インド神話物語百科	原書房	2021.4
ヴァンパイア	ヴァンパイアの教科書—神話と伝説と物語	原書房	2020.3
英米児童	英米児童文学作品・登場人物事典	松柏社	2012.6
エジプト文	図説 古代エジプト文明辞典	柊風舎	2016.5
エンクトゥ	エンサイクロペディア・クトゥルフ	新紀元社	2007.3
オカ怪事	オカルト怪異事典	笠間書院	2021.9
オペラキャラ	オペラ・キャラクター解説事典	音楽之友社	2000.6
オペラ大	オックスフォード オペラ大事典	平凡社	1996.3
神かたち	カラー版 神のかたち図鑑	白水社	2016.12
ギリキャラ	世界一よくわかる! ギリシャ神話キャラクター事典	グラフィック社	2020.7
クトゥ神	クトゥルー神話大事典	新紀元社	2018.12
ケルト神伝	ケルト神話・伝承事典	論創社	2022.7
ケルト文化	ケルト文化事典	東京堂出版	2017.5
幻獣辞典河	幻獣辞典 (河出文庫)	河出書房新社	2015.5
幻獣辞典新	幻獣辞典 新版	晶文社	2013.10
幻想用語	幻想用語辞典	新紀元社	2021.5
三國人物上	三國志人物事典 (上) (講談社文庫)	講談社	2009.3
三國人物中	三國志人物事典 (中) (講談社文庫)	講談社	2009.3
三國人物下	三國志人物事典 (下) (講談社文庫)	講談社	2009.3
三国全人	三國志全人物事典	G.B.	2007.10
三国武将	三國志武将事典	新紀元社	2014.12
シェイ作人	シェイクスピア作品・人物事典	研究社	2002.3
シェイ人名	シェイクスピア人名事典	東洋書林	1997.11
西洋異形	西洋異形大全	グラフィック社	2015.5
世海賊	世界の海賊大事典	宝島社	2015.3
世怪物神獣普	世界の怪物・神獣事典 普及版	原書房	2014.9
世神々神話	ヴィジュアル版 世界の神々と神話事典	学研プラス	2016.11
世現代怪	世界現代怪異事典	笠間書院	2020.6

3) 典拠に人名の読みが記載されていなかったものについては、調査の上、編集部で適切と思われる読みを補記し、末尾に★を付した。

### (2) 人物説明

#### 1) プロフィール

人物の地域・国名、身分・肩書・職業・特徴、文学作品の登場人物であれば作品名などの出典を簡潔に記載した。地域・国名や民族名は、原則として出典での名称のままとした。

### (3) 掲載事典

- その人物が掲載されている事典を ⇒ の後に略号で示した。(略号は別表「収録事典一覧」を参照)
- 各事典における人名見出しおよび生没年を ( ) に入れて示した。見出しは各事典における日本語表記(カナ・漢字・読み)を示したが、アルファベット表記を見出しに採用している事典は、アルファベット表記およびそのカナ表記を示した。生年または没年が不詳の場合は“?”を用いて表し、生年または没年の一方のみが記載されている場合は、記載のない方を“\*”で表した。
- 表記に複数の説がある場合は、/で区切って示した。
- 同一事典に同名見出しが存在する場合など掲載箇所を示すため、地域名や分類等を人名表記の後ろに [ ] で補記したものもある。
- 各事典のデータ末尾に [像] で肖像画、挿絵の有無を示した。

### 4. 参照項目

別名・別読みから本書で採用した見出し名・見出し読みが検索できるように適宜参照項目を立てた。

### 5. 排列

- 人名見出しの読みの五十音順に排列した。
- 濁音・半濁音は清音とし、ヂ→シ、ヅ→スとした。促音・拗音は直音とみなし、長音符(音引き)は無視した。
- 同読みの場合は、同じ表記のものをまとめた。

### 6. 収録事典一覧

- 本書で索引対象にした事典の一覧を次ページ(および見返し)に掲げた。
- 略号は、本書において掲載事典名の表示に使用したものである。
- 掲載は、略号の読みの五十音順とした。

略号	書名	出版社	刊行年
世幻妖	世界幻妖図鑑—ドラゴンから妖怪 (YOKAI) まで	フレーベル館	2020.3
世神英事典	世界の神話 英雄事典	河出書房新社	2019.11
世神英図鑑	世界の神話と英雄大図鑑	河出書房新社	2020.10
世神伝怪百	図説 世界の神話伝説怪物百科	原書房	2019.9
世神伝図鑑	コンパクト版 世界の神話伝説図鑑	原書房	2020.5
世神伝大	世界神話伝説大事典	勉誠出版	2016.8
世女神	世界女神大事典	原書房	2015.9
世妖怪講	世界の妖怪大図鑑	講談社	2022.6
世妖精妖怪普	世界の妖精・妖怪事典 普及版	原書房	2014.8
創作怪事	創作怪異怪物事典	笠間書院	2022.7
創造神話	創造神話の事典	青土社	1998.8
チベット	チベット密教仏図典	春秋社	2019.10
中国妖鬼	中国妖怪・鬼神図譜	集広舎	2015.12
ドラゴン	ドラゴンの教科書—神話と伝説と物語	原書房	2019.8
南米妖怪	南米妖怪図鑑	ロクリン社	2019.7
バレエキャラ	バレエ・キャラクター事典 新装版	新書館	2015.3
姫大全	お姫さま大全—100人の物語	講談社	2011.3
北欧ゲル事	北欧とゲルマンの神話事典—伝承・民話・魔術	原書房	2019.10
北欧神大全	図説 北欧神話大全	原書房	2019.11
ホームズ大	シャーロック・ホームズ大百科事典	河出書房新社	2002.12
ホームズ百	シャーロック・ホームズ百科事典	原書房	1997.11
魔法使い	魔法使いの教科書—神話と伝説と物語	原書房	2019.10
マヤアス文	ビジュアル図解 マヤ・アステカ文化事典	柘風舎	2020.3
メソポタ文	ビジュアル図解 メソポタミア文明事典	柘風舎	2021.1
モーツァルト	モーツァルトオペラ人物事典	柏書房	1991.12
ユダヤ神	ユダヤ神話・呪術・神秘思想事典	柏書房	2020.2
妖精教科書	妖精の教科書—神話と伝説と物語	原書房	2020.2
来訪神	来訪神事典	新紀元社	2020.8
ラルギロ	ラルース ギリシア・ローマ神話大事典	大修館書店	2020.7
ラヴクラ	H・P・ラヴクラフト大事典	エンターブレイン	2012.3
ローマ宗	ローマ宗教文化事典	原書房	2019.10

## 【ア】

## アイ Äi

エストニア南部に伝わる病気をはこんでくる精霊。  
フィンランドのアイアタルと似たもの。

⇒世怪物神獣普 (アイ)  
⇒世妖精妖怪普 (アイ)

## アイ(1世) Ay I

エジプト第13王朝の王。即位名メルネフェルラー。  
⇒エジプト文 (アイ(1世))

## アイ(2世) Ay II

紀元前14世紀のエジプト第18王朝の王。即位名ケ  
ベルケルウラー。

⇒エジプト文 (アイ(2世)) [像]

## アイア Aia

パシス河神に追われた時、神に祈って鳥になったと  
いうニンプ。

⇒ラルギロ (アイアまたはアイアイエ)

## アイアコス Acacus

ギリシアの英雄。ゼウスとアソポス河神の娘アイ  
ギナとの子。死後は冥界の裁判官。

⇒岩世人 (アイアコス)  
⇒世神伝大 (アイアコス)  
⇒ラルギロ (アイアコス)

## アイアス(小アイアス) Aias

ロクリスのオプスの王オイレウスの子。通称、小ア  
イアス。

⇒岩世人 (アイアス)  
⇒ラルギロ (アイアス(ロクリス人)) [像]

## アイアス(大アイアス) Aias

サラミース王テラモーンの子。通称、大アイアス。

⇒岩世人 (アイアス)  
⇒ギリキャラ (アイアス) [像]  
⇒世神伝大 (アイアス)  
⇒ラルギロ (アイアス(テラモンの子)) [像]

## アイアタル Aiatar

フィンランドで「森の悪魔」と呼ばれる、病気をは  
こぶ精霊。

⇒世怪物神獣普 (アイアタル)  
⇒世妖精妖怪普 (アイアタル)

## アイアラス Iras

シェイクスピア作『アントニーとクレオパトラ』に  
登場するエジプト女王クレオパトラの侍女。

⇒シェイイ作人 (Iras アイラス)  
⇒シェイ人名 (アイアラス)

## アイイ Aji

ヤクートの神話における天界の善神。

⇒世神伝大 (アイイ)

## アイイシット Ajysyt

東シベリアのレナ川近辺に住むヤクート人(トルコ  
系民族)の母神。アイシットとも。

⇒世神伝大 (アイシット/アイイシット)  
⇒世女神 (アイイシット [シベリアの女神])

## アイウエル Aiwel

スーダンのデインカ族に伝わる自然の精霊。

⇒世妖精妖怪普 (アイウエル)

## アイウス・ロクティウス Aius Locutius

ガリア人がローマに侵入するとき、警告の声を発し  
た神。

⇒ラルギロ (アイウス・ロクティウス)  
⇒ローマ宗 (アイウス・ロクティウス)

## アイエテス Acetes

コルクスの王。太陽神ヘリオスと大洋神オケアノ  
スの娘ベルセイスとの息子。

⇒岩世人 (アイエテス)  
⇒世神伝大 (アイエテース)  
⇒ラルギロ (アイエテスまたはアイエテス)

## アイエリコ Ayerico

マケドニアに伝わるデーモン。

⇒世妖精妖怪普 (アイエリコ)

## アイオ Aio

ゲルマン世界の双生神。8世紀の『ランゴバルド年  
代記』によると、亡命者たちをひきいてランゴバル  
ド人の祖となった二人の首領のひとり。

⇒世神伝大 (イポールとアイオ)  
⇒北歐ゲル事 (イポールとアイオ)

## アイオロス Aiolos

風の支配者、ヒッポテースの子。一説にはボセイ  
ドーン神の子。

⇒岩世人 (アイオロス)  
⇒世神伝大 (アイオロス)  
⇒世妖精妖怪普 (アイオロス)  
⇒ラルギロ (アイオロス(2))

## アイオロス Aiolos

ヘレーンとニンプのオルセーイスの子。アイオリ  
ス人の祖。

⇒岩世人 (アイオロス)  
⇒ラルギロ (アイオロス(1))

## アイオーン Aion

ギリシア神話で、時または永劫の擬人神。

⇒ラルギロ (アイオン) [像]

## アイガイオーン Aigaion

百手巨人(ヘカトンケイル)の一人。

⇒世怪物神獣普 (アイガイオーン)  
⇒ラルギロ (アイガイオン)

## アイギアレ Aigiale

アドラストスの娘あるいは孫娘。ディオメデスと  
結婚する。アイギアレイアとも。

⇒ラルギロ (アイギアレ(イア))

## アイギアレウス Aigialeus

アドラストスの長男。エビゴノイの一人。

⇒ラルギロ (アイギアレウス(1))

## アイギアレウス Aigialeus

アルゴスの最初の王イナコスの息子。

⇒ラルギロ (アイギアレウス(2))

## アイギストス Aegisthus

テュエステスとその娘ペロピアとの不義の息子。

⇒岩世人 (アイギストス)  
⇒世神伝大 (アイギストス)

## ドロン・エブゲン Doloon obogun

モンゴルで北斗七星のこと。モンゴル人の信仰では、獲物(野生動物)を管理する神、家畜の繁殖に与る神として、正月七日の夜に祭祀を行う。

⇒世神伝大(ドロン・エブゲン)

## ドワイトン卿, ジェイムズ

アガサ・クリスティ作『愛の探偵たち』の登場人物。レイディ・ローラ・ドワイトンの夫。

⇒アガサ大(ドワイトン卿, ジェイムズ)

## ドワイトン, レイディ・ローラ

アガサ・クリスティ作『愛の探偵たち』の登場人物。ドワイトン卿の妻。

⇒アガサ大(ドワイトン, レイディ・ローラ)

## ドワ・ソホル Dowah sohor

『元朝秘史(モンゴル秘史)』のチンギス・ハーンの系譜に登場する二人兄弟の兄。額の真中に唯一の目をもつ。

⇒世神伝大(ドワ・ソホル)

## トワデル Twaddell

ビグミー族の王。

⇒アーサー伝(トワデル)

## ドワネル Doimel, Antoine

トリュフォー監督の映画『大人は判ってくれない』の主人公。

⇒岩世人(ドワネル)

## ドワーフ Dwarf

世界のほとんどの民間伝承に見られるエルフやゴブリンの仲間。ふつうは人間の形をしているがたいへん小さく、年老いて萎びている。

⇒幻想用語(ドワーフ)

世妖怪講(ドワーフ【ヨーロッパの妖怪】)(像)

世妖怪怪譜(ドワーフ【ドワーフ】)(像)

妖怪教科書(ドワーフ)(像)

## ドン Dom

『アイルランド来寇の書』に登場する神話上の人物。ミールの息子として、アイルランドに上陸した最初のゴイデル人。生きる死者の国を支配する神。

⇒ケルト神伝(ドン)

世神伝大(ドン)

## ドーン

ネイティヴ・アメリカンのイロコイ族に伝わる、空の女神。

⇒世女神(ドーン【ネイティヴ・アメリカンの女神】)

## ドーン Dón

ウェールズの女神。アイルランドの女神ダーナに相当。

⇒ケルト神伝(ドーン)

世女神(ドーン【ウェールズの女神】)

## ドーン Doon

『ドーンの短詩』の主人公。

⇒アーサー神(ドーン)

## ドーン Dorn

クトゥルフ神話のひとつ『深きものども』に登場する超心理学研究者。

⇒クトゥ神(ドーン)

## ドン・アルヴァーロ Don Alvaro

ヴェルディ作曲のオペラ『運命の力』に登場する、レオノーラの恋人。

⇒オペラキャラ(ドン・アルヴァーロ)

## ドン・アルフォンソ Don Alfonso

モーツァルト作曲のオペラ『コシ・ファン・トゥッテ』に登場する哲学者。

⇒オペラキャラ(ドン・アルフォンソ)

オペラ大(アルフォンソ(1))

オペラ大(ドン・アルフォンソ)

モーツァルト(ドン・アルフォンソ)

## ドン・エイドリアーノ・デ・アーマード

Armado, Don Adriano de

シェイクスピア作『恋の骨折損』に登場する風変わりなスペイン人。

⇒シェイ作人(Armado, Don Adriano de ドン・エイドリアーノ・デ・アーマード)

シェイ人名(ドン・エイドリアーノ・デ・アーマード)

## ドン・オッターヴィオ Don Ottavio

モーツァルト作曲のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』に登場する、ドンナ・アンナの許婚。

⇒オペラキャラ(ドン・オッターヴィオ)

オペラ大(ドン・オッターヴィオ)

モーツァルト(ドン・オッターヴィオ)

## トンガ

コナン・ドイル作『四つの署名』に登場する、アンダマン諸島の島民。

⇒ホームズ大(トンガ \*1888)

ホームズ百(トンガ)

## とんがり頭 とんがりあたま

頭の先がとがっているマレーシアの妖怪。

⇒世妖怪講(とんがり頭【アジアの妖怪】とんがりあたま)(像)

## ドン・カルロ Don Carlo

ヴェルディ作曲のオペラ『ドン・カルロ』に登場するスペイン皇太子。

⇒オペラキャラ(ドン・カルロ)

## ドン・カルロス Dom Calos

アフリカ系ブラジル人のカルト、パトゥーキで崇敬されている精霊エンカンタード。

⇒世妖怪怪譜(ドン・カルロス)

## ドン・カルロス

ダルゴムイシスキー作曲のオペラ『石の客』に登場する、ラウラの愛人。

⇒オペラ大(ドン・カルロス)

## ドン・カルロ・ディ・ヴァルガス Don Carlo di Vargas

ヴェルディ作曲のオペラ『運命の力』に登場する、レオノーラの兄。

⇒オペラキャラ(ドン・カルロ・ディ・ヴァルガス)

オペラ大(ドン・カルロ)

## ドンキー・ケンタウルス The Donkey-Centaur

アイリアノスの著作『動物奇譚集』に記述されている、上半身が人間で下半身がロバのケンタウロスのような生物。

⇒世神伝怪百(ドンキー・ケンタウルス)(像)

## ドン・キホーテ Don Quixote

セルバンテス作『ドン・キホーテ』(第一部・1605、第二部・1615)の主人公。同名のバレエや、ミュージカル・映画『ラ・マンチャの男』でも知られる。

⇒岩世人(ドン・キホーテ)

世神伝大(ドン・キホーテ)

バレエキャラ(ドン・キホーテ)(像)

## ドン・クアルンゲ Dom of Cuálgne

アイルランドの伝説に登場する巨大で超自然的な牡牛。

⇒ケルト神伝(ドン・クアルンゲ)

世怪物神獣普(ドン・クアルンゲ【クアルンゲの褐色牡牛】)

## トングス Tonx

西部シベリアのヴォグ族の伝承に登場する水の精で、人間に対して好意的である。

⇒世妖怪怪譜(トングス)

## ドン・クルツイオ Don Curzio

モーツァルト作曲のオペラ『フィガロの結婚』に登場する裁判官。

⇒オペラキャラ(ドン・クルツイオ)

モーツァルト(ドン・クルツイオ)

## ドンゴ Dongo

西アフリカのソングアイ族の伝承に登場する天気の子。

⇒世妖怪怪譜(ドンゴ)

## 呑口 どんこう

中国の四川地方の一本の脚の形をした妖怪。

⇒世妖怪講(呑口 どんこう)(像)

## ドン・ジョヴァンニ Don Giovanni

モーツァルト作曲のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』に登場する、スペインの放蕩貴族。

⇒オペラキャラ(ドン・ジョヴァンニ)(像)

モーツァルト(ドン・ジョヴァンニ)

## ドン・ジョン Don John

シェイクスピア作『空騒ぎ』の登場人物。アラゴン領主ドン・ペドロの異腹の弟。

⇒シェイ作人(Don John, The Bastard ドン・ジョン)

シェイ人名(庶子ドン・ジョン)

## ドン・セグンド・ソンプラ Don Segundo

Sombra

グイラルデスの長編小説『ドン・セグンド・ソンプラ』に登場するガウチョ(アルゼンチンの大草原の牧童)。

⇒岩世人(ドン・セグンド・ソンプラ)

## ドンダン近くの島々に住む人々 Inhabitants of Islands Near Dundeya

ジョン・マンデヴィルの『東方旅行記』に記述がある巨人と怪物。

⇒世怪物神獣普(ドンダン近くの島々に住む人々)

## ドンディネロ Dondinello

カルドゥイノの父。

⇒アーサー伝(ドンディネロ)

## トントウ Tonntu

フィンランドの民間伝承に登場する家事の精の名。

⇒世妖怪怪譜(トントウ)

## トーン・トーン

映画『スター・ウォーズ』シリーズに登場するクリーチャー。

⇒創作怪事(トーン・トーン)

## ドンナー Donner

ワーグナーの楽劇『ニーベルンゲンの指環』に登場する北欧神話の雷神トールをドイツ神話にした雷神。

⇒オペラ大(ドンナー)

## ドンナ・アンナ Donna Anna

モーツァルト作曲のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』に登場する、ドン・オッターヴィオの許婚。

⇒オペラキャラ(ドンナ・アンナ)(像)

オペラ大(ドンナ・アンナ)

モーツァルト(ドンナ・アンナ)

## ドンナ・エルヴィーラ Donna Elvira

モーツァルト作曲のオペラ『ドン・ジョヴァンニ』に登場する貴婦人。

⇒オペラキャラ(ドンナ・エルヴィーラ)

オペラ大(エルヴィーラ(1))

オペラ大(ドンナ・エルヴィーラ)

モーツァルト(ドンナ・エルヴィーラ)

## ドン・バスクワール Don Pasquale

ドニゼッティ作曲のオペラ『ドン・バスクワール』に登場する、独り者の富裕な老人。

⇒オペラキャラ(ドン・バスクワール)

## ドン・ピツァロ Don Pizarro

ベートーヴェン作曲のオペラ『フィデアロ』に登場する刑務所長。

⇒オペラ大(ピツァロ)

## ドン・ファン Don Juan

ドン・ジュアンとも。スペインの伝説的な放蕩貴族。テイルソ・デ・モリーナの『セビーリヤの色事師と石の招客』(1630)で初めて文学に現われ、モリエール、デュマ、バイロンなど多くの作家の作品がある。

⇒岩世人(ドン・ファン)

オペラ大(ドン・ファン)

ホームズ大(ドン・ファン)

## トンプスン博士

アガサ・クリスティ作『ABC殺人事件』の登場人物。精神分析医。

⇒アガサ大(トンプスン博士)

## トンプソン Thompson

地下で眠っているアーサーと騎士に出会った伝説上の陶工。

⇒アーサー伝(トンプソン)

## トンプタ・グダーネ Tompta Gudhane

スウェーデン固有の精霊。

⇒北欧ゲル事(トンプタ・グダーネ)

## ドンブロフスキ夫妻 Dombrowski, Mr. and Mrs.

H.P.ラヴクラフトの小説『魔女の家の夢』に登場する、アーカム(魔女の家)の大家。

⇒クトゥ神(ドンブロフスキ)

ラヴクラ(ドンブロフスキ夫妻)

## トンベクアガシ Tong-Baek-a-ga-si

韓国の李美子(イ・ミジャ)が歌った同名の歌謡曲の主人公。ソウルの大学生と恋仲になるが捨てら

---

# 外国人物レファレンス事典 架空・伝承編 第Ⅱ期

---

2022年12月25日 第1刷発行

---

発行者／山下浩

編集・発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴中ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

---

電算漢字処理／日外アソシエーツ株式会社

印刷・製本／株式会社平河工業社

---

© Nichigai Associates, Inc. 2022

不許複製・禁無断転載

〈落丁・乱丁本はお取り替えいたします〉 〈中性紙北越波クリームキンマリ使用〉

ISBN978-4-8169-2941-0 Printed in Japan, 2022

---

本書はデジタルデータをご利用いただくことができます。詳細はお問い合わせください。